

工業部会 通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。



民間初の月面探査実現 宇宙ベンチャーに学ぶ

川崎のダイヤモンドが登壇 NASA計画で採用

工業部会GETプロジェクト(河野崇委員長、河野製作所社長)は27日午後6時~同8時まで、経営セミナー「宇宙に挑むベンチャーに学ぶ」をオンライン(Zoom)開催する。相模原からも近い川崎市内に拠点を構えるベンチャー企業、ダイヤモンドの三宅創太COOが登壇。同社は特殊なロボットを開発し、民間企業として初となる月面探査を予定する。小さな企業がどうやって大プロジェクトに参画できたのか。これまでの経緯や今後の展望などを三宅COOが語る。

GETプロジェクト講演会

同社はかわさき新産業創造センター(KBIC)に入居する企業で、超小型で超軽量、そして100Gの衝撃に耐えられる月面探査車(二輪走行ロボット)「YAOKI(ヤオキ)」を開発。その後、人類を再び月に運ぼうとする米航空宇宙局(NASA)の「アルテミス計画」において、2021年に先行実施される月面探査と物資輸送プロジェクトに、この探査車が採用されることになった。



開発した月面探査車「YAOKI」

「これからは月面探査車の時代がやってくる」といふ。12年2月に東京都大田区で創業した。開発した月面探査車は、谷底に落ちても問題なく100Gの衝撃にも耐えられ、転んでも倒れずとも走行する。ヤオキは「七転び八起き」になら

だという。現在、月に物資を運ぶコストは、1キロ当たり約1億円が必要とされる。そのため、超小型で超軽量のヤオキの登場は、アルテミス計画関係者の注目を集めている。同計画に先立ち、今冬に実施されるNASAの月輸送ミッション「クリプス」で、ヤオキを米アストロボティック社の着陸船に搭載。月面では水資源探査のほか、人間の居住区となり得るような洞窟探査といったミッションを遂行する予定。今回の講演会では、同社の挑戦の軌跡などから学び、規模の小さい企業による成長産業への参入について考えていく。

んで命名した。従来の月面探査車は、四輪や六輪だったが、ヤオキは初の二輪方式を採用した。手のひらに載せられる15×15×10センチの超小型、しかも、重さも498グラムと超軽量。これは従来型の探査車と比べると50分の1のサイズ、10分の1の重さ

工業副部長 コラム

経営者と 「構想力」

前回は「経営者と発想力」について説明しましたが、今回はさらに発展させた「構想力」について考えていきたいと思います。よい発想からアイデアが浮かんだとしても、現実まで持っていくには



構想力が必要になり、構想力が自らの人生で培ってきた経験値、それに知識を脳内でフル回転させてシャッフルさせることからはじめられます。その後、実現させるためには、自分にどんな「資源」があるのかを確認します。その一つが人脈です。自分にとって知らない分野だったら、人脈を通じて、その道の大家に教えを請うことが一番です。このパイプが太くなれば、現実に近づきます。ただ、専門家にどんなに教えてもらっても、実

現するのは自分一人では難しいといえます。よき理解者たちと一緒に進めることが早道です。しかしながら、一緒に進めようとして何人かに相談できると、最初から「それはできない」と決めつけてください。親身になって話してくれる人もいます。経験値とは、人生の積み重ねで、壁を乗り越えたときに体得するものです。構想力を発揮するために、欠かせない要素といえます。

実現に欠かせない「よき理解者」

一方、知識も一朝一夕

には宿りません。高校・大学だけでなく、社会人になってからも、知識を習得するための努力を継続してこそ身に付くのです。組織にいるだけで満足し、日々決められた仕事だけをやる人生を過ごしていたら経験値も知識も得られません。



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会